

SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2015

会社情報



開業を迎えた北陸新幹線（防音壁）

株式会社 スパンクリートコーポレーション

本 社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3

Tel:03-5689-6311 Fax:03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAQ 〈JASDAQスタンダード・コード 5277〉

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 2015年3月期について

日本経済は、政府による経済政策や日銀の量的・質的金融緩和の導入により、円安・株高基調が継続しており、引き続き緩やかな回復はみられたものの、個人消費は消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の長期化により、先行き不透明な状況が続いております。海外におきましても、中国や新興国での成長鈍化による影響や、中東及び東欧における地政学的リスクに起因する懸念から、景気の下振れリスクが払拭されない状況となっております。

この間、建設業界におきましては、公共投資が底堅く推移する中、人手不足に起因する労務単価の上昇や資材価格の高止まりの影響により、厳しい経営環境が続いてまいりました。

このような状況下で当社の業績は、売上高21億1百万円（前年同期比26.5%減）、営業損失3億7千万円（前年同期は2億4千6百万円の営業利益）、経常損失3億5千7百万円（前年同期は2億7千1百万円の経常利益）と減収減益となりました。

当期純損益につきましては、不動産事業の台東オリエントビルを売却した固定資産売却益2億4千3百万円を特別利益に計上し、1億7千3百万円の当期純損失（前年同期は1億5千7百万円の当期純利益）となりました。

事業部門別の業績は次のとおりであります。

①スバンクリート事業

当事業は、売上数量が前年同期比12.1%減と低迷しており、売上高は18億2千3百万円（前年同期比27.9%減）と減収となりました。利益面に関しましても、営業損失4億7千4百万円（前年同期は8千万円の営業利益）と減益となりました。

②不動産事業

当事業は、オフィスビルの賃料収入が安定収益源となっておりますが、経営資源の有効活用及び維持管理コスト削減のため、2014年7月末に築年数の一番古い台東オリエントビルを売却し、2014年12月中旬に千代田区神田神保町にオフィスビル1棟（神田TNKビル）を取得したことにより、売上高2億7千7百万円（前年同期比15.2%減）、営業利益1億1千1百万円（前年同期比34.8%減）となっております。なお、現在の所有オフィスビルは4棟です。

■ 2016年3月期の業績予想

業績に影響を与える未確定な要素が多いため、業績予想を数値で示すことが困難な状況であり、現時点での発表は差し控えさせていただきます。

■ 対処すべき課題

4期ぶりの赤字決算になってしまいましたが、会社を取り組まなければならない課題は、次の通りと考えております。

①製造コストの更なる引下げと、品質の向上

当社の生産設備は50余年を経て一部には経年疲労も目立ってきました。

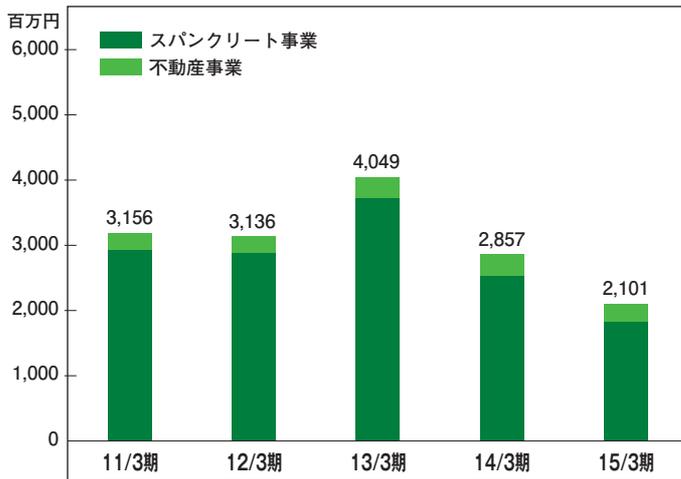
これが品質の低下や生産コストの漸増につながらないように、あらゆるオプションを持って対応しなければなりません。

「良い品を、安く」社会に貢献することが何よりも大切だと思っております。今の生産設備の強化で良いのか、別の方法を取るのか、よく考える必要があります。

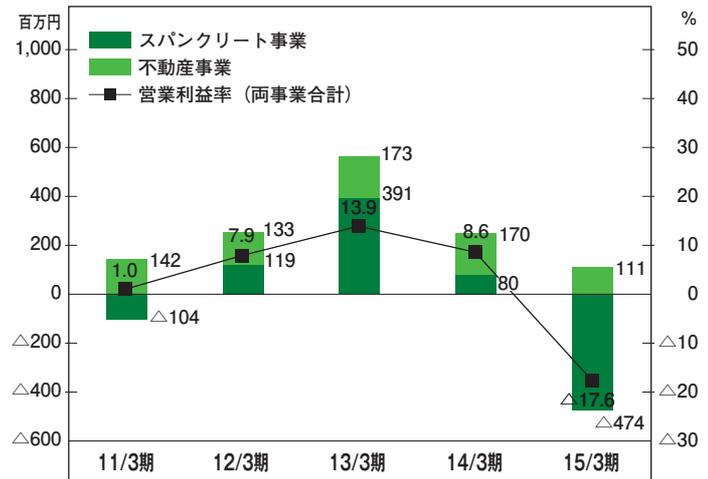
②販路の再構築と、新規需要の開拓

従来の需要体系に加えて新たな需要の開拓が大きな課題です。すでにいくつかの取り組みを始めておりますが、これを深化させてゆくことが大切です。

売上高



営業利益



損益計算書要旨

(単位：百万円)

	13/3期	(%)	14/3期	(%)	15/3期	(%)
売上高	4,049	100.0	2,857	100.0	2,101	100.0
売上原価	2,916	72.0	2,083	72.9	1,919	91.3
販売費および 一般管理費	571	14.1	527	18.5	552	26.3
営業損益	561	13.9	246	8.6	△370	△17.6
営業外損益	10	0.2	25	0.9	12	0.6
経常損益	572	14.1	271	9.5	△357	△17.0
特別損益	△67	△1.6	0	0.0	239	11.4
税引前当期純損益	504	12.5	271	9.5	△118	△5.6
法人税、住民税 及び事業税	43	1.1	88	3.1	9	0.5
法人税等調整額	62	1.5	25	0.9	45	2.2
当期純損益	399	9.9	157	5.5	△173	△8.3

スパンクリート事業 1,824百万円
不動産事業 277百万円

スパンクリート事業 △474百万円
不動産事業 111百万円
共通費用 △7百万円

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	13/3期	14/3期	15/3期
営業活動によるキャッシュフロー 営業活動から得たキャッシュ	714	606	△316
投資活動によるキャッシュフロー 投資活動から得たキャッシュ	97	△79	△578
財務活動によるキャッシュフロー 財務活動から得たキャッシュ	△44	△120	687
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額	770	406	△207
現金及び現金同等物の期首残高	1,874	2,644	3,050
現金及び現金同等物の期末残高	2,644	3,050	2,842

減価償却費などの資金の増加より、
税引前当期純損失、固定資産売却益
などによる資金の減少が上回ったため

固定資産の売却による収入より、
有形固定資産の取得による支出が
上回ったため

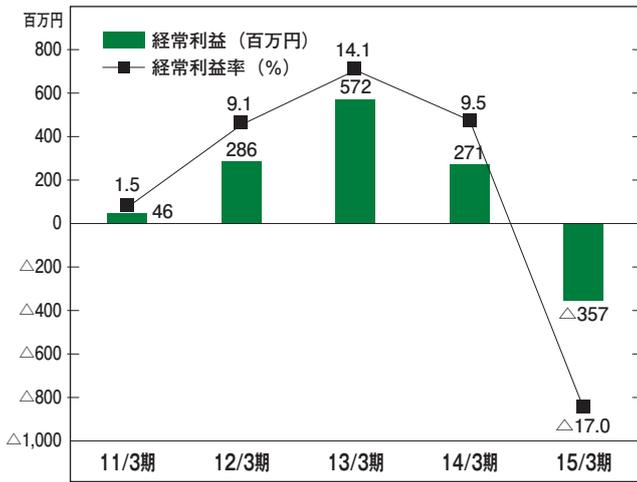
配当金の支払額・長期借入金の返済
より、短期及び長期借入による収入
が上回ったため増額

財務諸表コメント

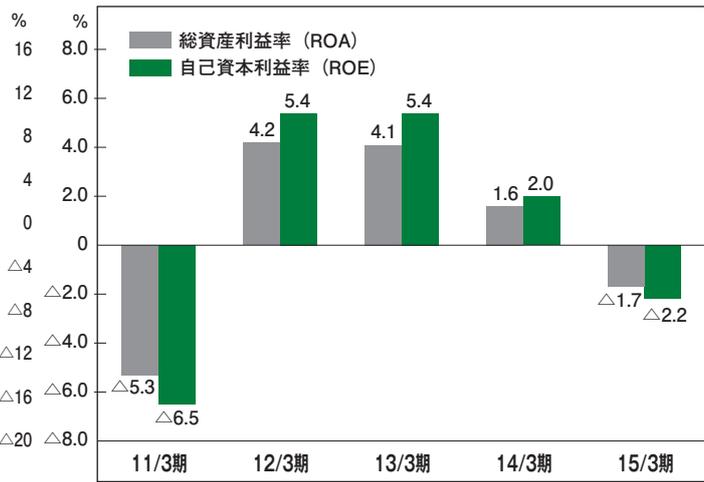
[15/3期]

建設業界の人手不足に起因する労務単価の上昇や資材価格の高止まりの影響により厳しい経営環境が続き、減収減益となりました。

経常利益



総資産利益率・自己資本利益率



貸借対照表要旨 (資産の部)

(単位: 百万円)

	13/3期	14/3期	15/3期	(%)
資産の部				
流動資産	3,927	3,811	3,639	35.5
現金及び預金	2,359	2,765	2,557	
受取手形及び売掛金等	978	473	550	
有価証券	285	285	285	
たな卸資産	239	239	175	
繰延税金資産	44	18	—	
その他	21	29	71	
固定資産	5,812	5,799	6,608	64.5
有形固定資産	5,055	5,005	5,694	55.5
無形固定資産	42	94	95	0.9
投資その他の資産	714	699	818	7.9
投資有価証券	639	629	765	
保険積立金	10	10	10	
その他	65	59	43	
資産合計	9,740	9,610	10,248	100.0

Point ① 神田TNKビル取得のため増額

貸借対照表要旨 (負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

	13/3期	14/3期	15/3期	(%)
負債の部				
流動負債	1,138	951	1,272	12.4
短期借入金	600	600	890	
1年内返済予定の長期借入金	—	—	101	
その他	538	351	281	
固定負債	891	884	1,253	12.2
負債合計	2,030	1,836	2,526	24.6
純資産の部				
株主資本				
資本金	3,295	3,295	3,295	32.1
資本剰余金	3,696	3,696	3,696	36.0
利益剰余金	551	593	150	1.4
自己株式	△370	△370	△370	△3.6
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	127	150	268	
土地再評価差額金	408	408	680	
純資産合計	7,709	7,774	7,721	75.3
負債純資産合計	9,740	9,610	10,248	100.0

Point ② 長期借入金による増額

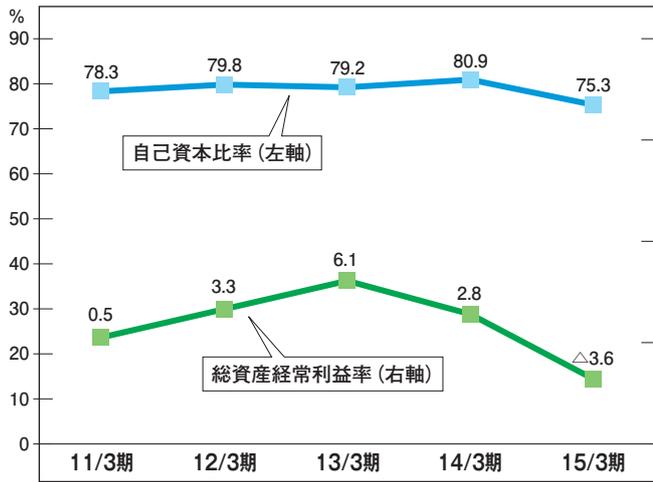
Point ③ 土地再評価差額金の取崩及び当期純損失による減少

財務諸表コメント

[13/3期] 売上数量が増加し、また鉄道関連などの需要が好調であったことに加え、前々事業年度より実施してきた構造改革の効果が現れたことから営業成績が好調であり、前期に引き続き増益となりました。

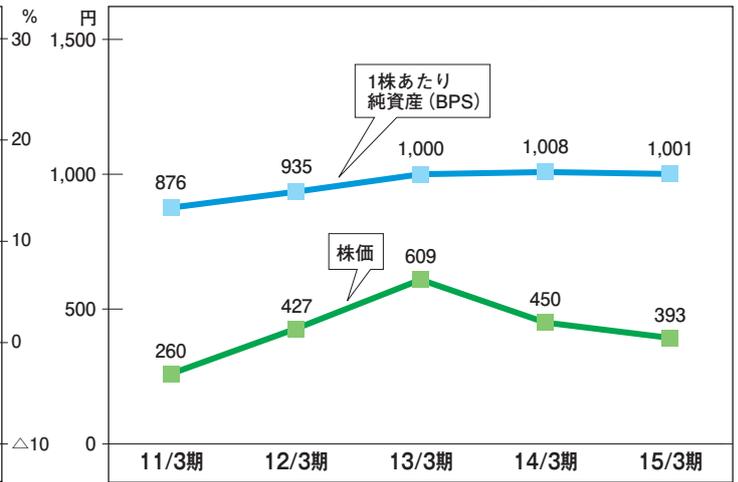
[14/3期] 鉄道関連の一時的な需要の減少により生産・出荷数量が低迷したことから売上数量が減少し、前期と比べて減益となりましたが黒字を確保しました。

自己資本比率と総資産経常利益率

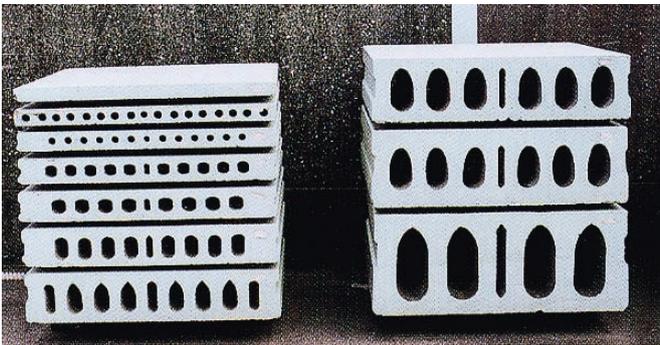


株価の推移 (終値)

期末株式総数 9,320,400株
うち自己株式 1,611,898株



スパンクリート



スパンクリート標準製品。スパンクリートは縦方向に数個の穴をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板です。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが特長です。当社はスパンクリートの生産・販売を行っております。

スパンクリートの特長

高強度部材で大スパンに適します



防水性に優れています



防火性に優れています



遮音性に優れています



主な実績

〈復興公営住宅〉合成床



本住宅の隣接地にも30棟を超える仮設住宅があり、地域住民の方々に切望されていたものでした。綿密な事前打合せを行った結果、工期短縮に大きく寄与致しました。人手不足で工期遅延が常態化しつつある被災地において、予定工期通りに納入出来たことと、現場打ちコンクリートの数量を減らすことが出来た合成床工法は高い評価を受けました。

〈オフィス・ホテル・住宅〉床・合成床



グランドプリンスホテル赤坂跡地に建設中の一大プロジェクト。オフィス・ホテル棟では、将来開口可能床として、各階設置部にフルPC床材を使用し、富士山が一望出来る住宅棟には、ハーフPC合成床板が各階に採用されています。

〈マンション〉合成床



水と緑を眼下に良好な眺望の高層マンション。各住戸の床にスパンクリートが採用されました。

〈物流倉庫〉リブ付外壁



外壁に採用されました。部分的にリブ（高さ20mm）を設けたことにより、デザイン性に優れた仕上がりとなりました。

〈焼却処理施設〉外壁



他部材にはない長尺、ワイド板の横貼りで施工。重厚感のある建物に仕上がりました。

〈駅〉合成床



電車の往来がない夜間での限られた取付作業。制限が多く困難でしたが、スパンクリート合成床工法の長所を生かすことで、広範囲を短い時間で効率良く施工することが可能となりました。

〈教育施設〉外壁

〈資料提供：上田市〉



城址のほとりに建つ城をイメージした校舎。美しい白壁をワイド板の縦貼りで施工しました。

資料請求、お問い合わせは…

株式会社スパンクリートコーポレーション
IR担当 野崎京子・的場 舞
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-4-3
電話 03(5689)6311

制作協力：

株式会社プロネクス
営業第3部 第2グループ 大木 整
〒105-0022 東京都港区海岸 1-2-20 汐留ビルディング
電話 03(5777)3014

〈冷蔵倉庫〉 外壁・間仕切壁



これまででも多く採用されてきました、冷蔵庫の外壁と間仕切壁。

外壁は、幅2mのワイド板を使用しております。ワイド板のため取付枚数も少なく工期短縮に貢献しました。

〈物流倉庫〉 合成床



スパンクリート合成床工法を採用することにより、建物重量と建設コストの低減を実現しました。

施工方法の打合せを重ねた結果、床ひび割れ防止対策に成功し、美観良く仕上がりました。

ひとこと



代表取締役社長

飯 牟 礼 聡
い い む れ さ と し

第53期（2015年3月期）は、このような決算になってしまい、誠に申し訳なく思っております。4年ぶりの赤字決算でしたが、何とか配当は確保することが出来ました。

第53期当初に策定した予算の時点から、国内の建築を巡る環境が悪化し、当社で受注はしたものの、納材のスケジュールが遅れてきたことなどがこの大きな原因です。しかし、外部環境だけが理由のすべてではなく、社内で改善すべき点も多くみられます。

また、第54期の業績予想もおなじ原因から、予想開示をしばらく見合わせることにしました。

今年は、将来どのような方向に向かって行くのか、成長戦略をじっくりとゼロから練り直さなければなりません。生産は？工場は？商品は？営業は？コーポレートは？これらが明らかになった段階で、改めてご報告をしたいと思っております。引き続きみなさまのご支援を心よりお願いする次第です。

会社の概要

1. 会社名 株式会社スパンクリートコーポレーション
(英文名) SPANCRETE CORPORATION
2. 設立 1963年(昭和38年)3月23日
3. 資本金 32億9,590万円(2015年3月31日現在)
4. 役員
代表取締役社長 執行役員 飯牟礼 聡
取締役相談役 齊藤 建次
取締役執行役員 菊池 透
取締役 村山 典子
* 取締役 分藤 潔
* 取締役 大野 浩司
* 取締役 坪井 哲明
** 常勤監査役 森 康裕
** 監査役 松岡 幸秀
** 監査役 矢野 千秋
執行役員 井上 孝広
執行役員 山岡 伸吉
執行役員 井上 卓郎
執行役員 多田 昌司

(2015年6月22日現在)

*は社外取締役です
**は社外監査役です
5. 本社 東京都文京区湯島2-4-3
〒113-0034 TEL(03)5689-6311
仙台営業所 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-6-12-208
〒981-0904 TEL(022)272-1901
宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5
〒321-0905 TEL(028)661-2211
6. 取引銀行 みずほ銀行(丸の内中央支店)
三井住友銀行(小石川支店)
三菱東京UFJ銀行(神田駅前支店)
りそな銀行(上野支店)
三菱UFJ信託銀行(本店)

主要取引先

- 設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田設計・(株)梓設計・(株)創元設計・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他
- 商社 三菱商事(株)・三菱商事建材(株) 他
- 建設会社 鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株) 他

大株主

- 1 三菱商事(株)
 - 2 日本スパンクリート機械(株)
 - 3 鈴木金属工業(株)
 - 4 村山 典子
- 5 村山 知子

会社の沿革

- 1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立
資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任
4月 資本金4,000万円に増資
7月 資本金1億円に増資
- 1964年 2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始
7月 資本金2億円に増資
- 1970年 10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始
- 1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役社長村山好弘就任
- 1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あきPC板工業協会)設立
会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任
- 1976年 5月 JISA6511(空胴プレストレストコンクリートパネル)制定される
- 1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資
- 1982年 12月 宇都宮工場 JIS指定工場となる
- 1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得
7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始
- 1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資
- 1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得
10月 資本金4億2,434万円に増資
11月 資本金14億9,759万円に増資
11月 岩瀬工場建設完了 生産開始
- 1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞
- 1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパンクリートコーポレーションに変更
4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞
9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資
- 1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒章受章(スパンクリート合成床の発明考案など業務精励)
5月 株式を1対1.4に分割
- 1993年 5月 岩瀬工場 JIS指定工場となる
- 1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転
- 2003年 8月 Jスラブ(組立床工法)財団法人日本建築センターの構造評定を取得
- 2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社名変更)の株式を100%取得
- 2005年 5月 宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO 9001認証取得
6月 原田穰代表取締役社長就任
11月 1単元の株式数を1,000株から100株に変更
- 2006年 3月 プレテック株式会社解散
10月 普通株式1株を2株に分割
- 2010年 6月 齊藤建次代表取締役社長就任
7月 本社を文京区湯島に移転
11月 岩瀬工場閉鎖
生産設備を宇都宮工場に統合
- 2013年 6月 飯牟礼聡代表取締役社長就任



宇都宮工場